

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	〒760-8582 香川県高松市天神前6番1号
管理機関名	香川県教育委員会
代表者名	工代 祐司

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 香川県立高松北高等学校
学校長名 國木 健司
類型 グローカル型

3 研究開発名

グローバル化に対応した地域デザインを創造する地域創生リーダーの育成

4 研究開発概要

芸術やスポーツの分野をはじめとする地域の課題の解消に向けた地域デザインの構想力・提言力を育み、生徒自らが主体的に地域と連携しながら地域活性化実現の原動力となるとともに、グローバルな視野を持ち多文化共生の地域社会を創造する地域創生リーダーを育成する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- | | | | |
|-------------|--------|---|---------|
| ・学校設定教科・科目 | 開設している | ・ | 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | 活用している | ・ | 活用していない |

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
堀井 秀之	東京大学名誉教授 (一社)日本社会イノベーション センター 代表	学識経験者及びイノベーション教育に 専門知識を有する者
村川 雅弘	甲南女子大学人間科学部・教授	学識経験者及びカリキュラム・マネジ メントに関して専門知識を有する者
西成 典久	香川大学経済学部・教授	学識経験者及び地域連携に関して専門 知識を有する者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
香川県教育委員会	教育長 工代 祐司
香川県立高松北高等学校	校長 國木 健司
香川県立高松工芸高等学校(連携校)	校長 塩崎 潤
香川大学創造工学部	教授 末永 慶寛
高松市総務局危機管理課	課長 為定 典生
創造都市推進局文化・観光・スポーツ部観光交流課	課長 吉峰 秀樹
穴吹学園 穴吹ビジネスカレッジ	校長 篠原 達司
(株)人生は上々だ	代表 村上 モリロー

8 カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職
海外交流アドバイザー	喜多野裕介	名鉄観光サービス(株)高松支店長
海外交流アドバイザー	大本 耕造	(株)JTB高松支店・営業第一課長
海外交流アドバイザー	阿吹 隆広	(株)JTB高松支店・営業第一課長代理
海外交流アドバイザー	曾我部友仁	(株)日本旅行高松支店・営業課長
海外交流アドバイザー	南出 准	(株)アイエスエイ関西支社・法人営業部担当
地域協働学習実施支援員	村上モリロー	(株)人生は上々だ・代表
地域協働学習実施支援員	吉川 賢司	(株)人生は上々だ・アカウントエグゼクティブ

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
コンソーシアム			→										
海外交流アドバ イザー	→												
地域協働学習実 施支援員	→												
運営指導委員会			→	→				→			→		

(2) 実績の証明

①運営指導委員会の活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年6月4日 (第1回)	高松北高等学校を視察(3年生成果発表会)及び第1回会合(今年 度の事業の進め方についての助言)

(別紙様式3)

令和3年7月2日 (第2回)	高松北高等学校を視察(3年生代表者発表会)及び第2回の会合 (探究活動充実についての助言)
令和3年11月19日 (第3回)	高松北高等学校を視察(2年生中間報告会)及び第3回の会合(探究活動充実や今年度の課題についての助言)
令和4年2月18日 (第4回)	高松北高等学校を視察(2年生代表者発表会)及び第4回の会合 (これまでの研究開発の総括と今後の取組への助言)

②コンソーシアムの活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年6月4日 (第1回)	第1回運営協議会 ・3年生成果発表会の審査及び生徒への指導・助言 ・分野別の担当教員とのグループ協議及び指導・助言 ・3年目の研究開発実施計画等協議, 研究開発推進方針等決定
令和3年7月2日 (第2回)	第2回運営協議会 ・3年生代表者発表会の審査及び生徒への指導・助言 ・3年団の担当教員への指導・助言 ・研究の現状や課題, 今後の研究方針等について全体協議
令和3年10月22日 (第3回)	第3回運営協議会 ・1年生中間報告会の審査及び生徒への指導・助言 ・分野別の担当教員とのグループ協議及び指導・助言 ・研究の現状や課題, 今後の研究方針等について全体協議
令和3年11月19日 (第4回)	第4回運営協議会 ・2年生中間報告会の審査及び生徒への指導・助言 ・分野別の担当教員とのグループ協議及び指導・助言 ・研究の現状や課題, 今後の研究方針等について全体協議
令和4年2月18日 (第5回)	第5回運営協議会 ・2年生代表者発表会の審査及び生徒への指導・助言 ・これまでの研究開発の総括, 今後の取組への助言

③海外交流アドバイザーの活動実績

実施日	所属・氏名	活動内容
令和3年7月19日	JTB 阿吹氏	・韓国の高校生とのオンライン交流のコーディネート
令和3年10月24日～26日	日本旅行 湯谷氏	・東北防災・環境研修旅行のコーディネート
令和3年12月18日～19日	名鉄観光 池内氏	・岐阜スポーツ・芸術研修旅行のコーディネート
令和3年12月24日～28日	ISA 南出氏	・エンパワーメントプログラムのコーディネート

(別紙様式3)

④地域協働学習実施支援員の活動実績

活動日程	内容
令和3年4月23日	講演会「より良い探究活動に向けて」 ・優れた探究活動とはどのようなものか、探究活動を進めるうえでの留意点や効果的な手法について指導
令和3年6月4日	第1回運営協議会 ・今年度の事業計画についての指導助言 ・芸術分野担当教員に対し協働学習の進め方を指導
令和3年7月2日	第2回運営協議会 ・実施計画及び研究開発推進方針等について協議し、今後の研究開発への支援方針や方法等を決定
令和3年10月22日	第3回運営協議会 ・芸術分野担当教員に対し協働学習の進め方を指導 ・協働の現状や課題、今後の協働の進め方について指導
令和3年11月19日	第4回運営協議会 ・芸術分野担当教員に対し協働学習の進め方を指導 ・協働の現状や課題、今後の協働の進め方について指導
令和4年2月18日	第5回運営協議会 ・これまでの研究開発の総括、今後の取組への助言

⑤管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・指定校での探究活動の高度化につなげるため、併設中学校での探究活動やグローバル関係の行事に対する予算措置を行った。
- ・推進校の成果を広く県内の高校へ普及させるため、オンデマンド配信形式にて第3回香川県高校生探究発表会を開催した。本校の教員が紙上にて取組の成果の発表をするとともに、1・2年生の代表7グループ（県下で最大数）が動画の公開による発表を行い、県内の高校全体として探究的な学びの推進につながった。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程（月別実施回数）

実施項目	学年	実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「総合的な探究の時間」における地域探究学習	1	3	2	4	2	※①	2	4	3	3	3	2	1
	2	4	2	4	2	※①	2	4	3	3	3	2	1
	3	4	2	4	2	※②	※②	※②	※③	※③	※③	※③	
「社会と情報」における探究活動	1	3	3	3	2	0	2	4	3	3	3	2	1

※①：探究班ごとの現地研修等

※②：探究成果をもとに進路探究活動

※③：進路決定後に提言・実践活動

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- ・年度当初にグローバル委員会を中心とした指導体制のもと、生徒各自が主体的に取り組み

る地域課題に関する探究テーマを設定させる。その際、今後のさらなるグローバル化に伴う社会の変化の中で地域振興に寄与できると考える次の5分野に関するテーマを設定させた。

【グローバル化、芸術、スポーツ、防災・環境、看護・医療・福祉】

- ・海外研修は昨年度に引き続き全て中止となったが、グローバル事業の基本となるグローバルな感性や英語コミュニケーション力を身に付けさせるため、県内での外国人との交流会や研修会、海外の学生とのオンラインでの交流、英語コミュニケーション能力の強化を図る外国語授業の充実に取り組んだ。
- ・全ての教科の授業担当者が可能な範囲で地域に関連した内容やグローバル化に関する内容を取り扱ったり、グループによる対話的かつ探究的な学習の機会を取り入れたりして、その成果をスピーチ又はプレゼンしていく授業を実践した。
- ・総合的な探究の時間においては、各教科・科目等において育成を図ったグローバルな感性や視点、対話力、表現力を総合的・統合的に活用しながら探究する力を育成することとした。
- ・1、2学年ともにコンソーシアムの構成団体や5分野に関連する関係機関の専門家を招いた講演会を開催するとともに、1学年については県内の関係機関と連携した現地研修を1学期末に7カ所で行った。この研修はテーマを設定する上で大いに参考になるとともに、体感力や探究意欲の向上にも大きく貢献した。
- ・現地調査の計画・実施に際しては、地域協働学習実施支援員やコンソーシアム構成員からも具体的な指導を受けたり、これまでの実施内容を参考にしながら各分野の指導担当教員が指導・助言を行った。
- ・情報の収集活動とその整理・分析に関しては、あらかじめ「社会と情報」及び「数学Ⅰ」の各単元において基本的な実施方法を指導し、前者の授業ではそれぞれの班別に設定したテーマに関する情報収集や情報の整理・分析を行った。
- ・2学年では、総合的な探究の時間における探究活動は文系・理系コースの枠を外した文理混合型となるよう分野別の活動に転換し、各分野の探究班が相互に意見交換や質疑応答を行うなど対話型・協働型の探究活動を推進した。
- ・中間報告会及び成果発表会においては、コンソーシアム構成員による審査と指導助言を行うとともに、コンソーシアムの助言を受けながら作成したルーズリーフをもとに評価を行った。なお、運営協議会ではコンソーシアム構成員が分野別指導担当教員に対し個別に指導・助言を行う分科会も設けたため、校内の指導体制の充実に役立った。
- ・3学年では2学年次の探究内容をさらに深めた上で、ポスター発表を行った。さらに、探究内容の優れている班を選抜して代表者発表会を開催し、3学年に加えて2学年にも発表会に参加させることで効果的な探究手法や発表の仕方について学年を超えて共有することができた。
- ・1、2学年の各分野別の地域課題研究内容は以下のとおりである。

【グローバル分野の探究】

1年生は11班41名、2年生は15班78名の生徒が探究課題を設定した。地域の伝統工芸や島しょ部の観光振興等、地域活性化をテーマにしたものが多い。外国人観光客への対応をテーマに選んだ班が最も多かったが、四国遍路や古墳など文化遺産をテーマに取り上げた班もあった。外国人留学生との交流活動や海外の学生とのオンライン交流等を通し

(別紙様式3)

てグローバルな感性とコミュニケーション力を身に付けさせた。また、県内の観光地や空港・駅、県庁・市役所等に足を運んでヒアリングや実地調査を行った。

【芸術分野の探究】

芸術分野は1年生が10班34名、2年生が9班33名の生徒が探究課題を設定した。高松市美術館をはじめとする芸術関連施設や瀬戸内国際芸術祭の舞台となった島々で現地研修を行った。県下でも人気の観光スポットをテーマに選んだり、各種イベントの活性化や新企画を立案した探究班が多い。

【スポーツ分野の探究】

スポーツ分野は1年生が14班54名、2年生は3班13名が探究課題を設定した。学年によって、選択した班数が大きく異なる。スポーツ関連施設や地元のスポーツチーム、香川県教育委員会保健体育課等での現地研修を行った。スポーツという共通するテーマでも、班によって高齢者・子供・障がい者等、様々な対象を想定しながら探究活動に取り組んでいる。

【防災・環境分野の探究】

1年生は9班42名、2年生は15班78名が探究課題を設定した。香川大学創造工学部での体験型防災研修や高松市防災合同庁舎での研修、実際に避難経路をたどってのフィールドワーク等を行い、情報を収集している。南海トラフ地震に関連したテーマを設定した班が最も多いが、2年生ではゴミ問題や水質問題等の環境問題を取り上げた班も多い。

【看護・医療・福祉分野の探究】

1年生は11班40名、2年生は6班32名が探究課題を設定した。遠隔医療や医療従事者の不足といった近年注目される医療問題に加え、外国人のための医療制度の整備や糖尿病対策、さらには高齢者福祉に関する課題をテーマにした班が多い。香川大学医学部や穴吹医療大学校、県内の各病院等における現地研修やフィールドワークを行い、安心・安全な生活環境を整えるための方策等について探究を行った。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な探究の時間）

- ・「総合的な探究の時間」（各学年1単位）及び1学年の「社会と情報」2単位のうちの1単位を研究開発のための情報収集や整理、まとめ、成果発表の時間に充てた。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・各学年団や各教科会において、各教科・科目での地域学習、探究的学習・対話的学習の取組によって育成を図ることとした資質・能力を、総合的な探究の時間において総合的・統合的に活用することに全校を挙げて取り組むことを周知徹底し実践した。
- ・併設する高松北中学校時代に推進してきた対話的な学びを発展させることができるよう、各教科・科目での探究的・対話的な授業実践には積極的に取り組むこととした。
- ・外国人との積極的なコミュニケーションが図れるよう総合的な探究の時間において多様な外国人との交流の場を設けるとともに、外国語の各科目の指導における英語によるプレゼン力やコミュニケーション能力の育成を一層推進した。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

校長・教頭・主幹教諭・教諭7名からなるグローバル委員会が中心となり、外部関係機関

(別紙様式3)

と連携しながら、年間スケジュールの調整、進捗管理等を行うとともに、必要に応じてカリキュラム等の変更・追加・改善についての研究を行った。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

グローバル委員会の下、主幹教諭・学年主任等により構成される探究委員会を中心に、「総合的な探究の時間」の年間実施計画作成や現地研修の計画・指導等を行い、計画的な研究開発に努めた。また、昨年度から各教科・科目と総合的な探究の時間の教科等横断的な取組を充実させることとしたため、各教科会も研究開発で大きな役割を果たすことになり、全校的な研究体制が更に充実した。また、コンソーシアムの運営協議会では昨年に引き続き分科会を設け、指導担当教員への具体的な指導や支援を行った。

⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

- ・海外交流アドバイザーは、当初本校が実施を計画していた海外研修旅行について、その企画段階における指導・助言を予定し、学校長が委嘱し無報酬で担当していた。予定していた海外研修がすべて中止となったため、オンラインによる交流の企画や現地との調整役を依頼した。
- ・地域協働学習実施支援員は、学校の依頼を受け運営協議会での一員として地域の課題や探究活動に関する指導・助言を行うほか、今年度は1年生を対象としたより良い探究活動のあり方についての講演を行ったり、中間報告会や成果発表会での審査や講評、総合の時間内での探究活動の具体的アドバイス等を行った。

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・コンソーシアムでは、3年間を見通した研究開発計画や年間指導計画の作成、進捗管理、課題の解決方法などについて協議や調整を行いながら研究開発を進めているほか、各探究分野ごとの進捗管理や探究成果の検証・評価については、コンソーシアム関係者に加え、探究活動に際して連携する関係機関の専門家からも指導・助言を受けた。
- ・グローバル委員会を適宜開催し、研究開発計画の調整、進捗管理、評価方法等についての検討を行っており、教科横断的な研究やループリックによる評価、ICT機器を活用した情報収集など、研究開発の推進や深化に貢献した。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・5回の運営協議会において、全体計画の策定や進捗管理、計画の変更・修正を行うとともに、プレゼン力育成の取組や評価方法の工夫など新たな取組も進めるなど、研究開発全般に関わった。
- ・専門的な見地から各探究分野の指導担当教員や生徒に対しても講評や指導・助言を行ったり、新たに連携・協力すべき関係機関の提言も行った。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

- ・4回の運営指導委員会において、探究テーマの設定方法、探究活動の実施要領、他の校種での実践事例などの研究開発に役立つ指導・助言をいただいた。
- ・開催日を成果発表会に設定しているため、個々のグループの探究活動に関する指導・助言を多くいただいた。

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

【グローバル研修】

ア) 海外の学生とのオンライン交流 (2年グローバルコース対象)

交流相手	日程	対象者	人数	概要
韓国高校生	令和3年7月19日	2年	40名	お互いの自己紹介や高校生活を紹介しながらの異文化交流

イ) 県内の外国人との交流研修

交流相手	日程	対象者	人数	概要
県内留学生	令和3年6月20日	全学年	87名	10か国からの留学生等と、各部の活動を紹介しながらの交流

【国内課題探究研修】

- ・分野別県内研修：1年生全員を対象に、7月に5分野計7か所の関係機関と連携し、地域課題研修を実施。県内の各種施設や有名観光地等でのヒアリングも実施。
- ・東北防災・環境研修旅行：10月、1・2年生希望者24名対象に、東日本大震災被災地で防災対策や復興事業、環境再生プロジェクト等を研修。探究の深化に大きく貢献した。
- ・岐阜スポーツ・芸術研修旅行：12月、サッカー部1・2年生36名対象に、サッカーJ3チームのFC岐阜や岐阜城を訪問し、スポーツや文化財を活かした地域振興について研修を行った。

⑩成果の普及方法・実績について

1・2年生ともに、専門家を招いた講演会や成果発表会の様子、現地での研修やヒアリングの様子等について、学校のウェブサイトで公表したほか、地域と連携したイベントやボランティア活動についても可能な限り報道提供を行った。各学年の関係者や他校の担当者等への公開・普及については次のとおりである。

1年生：中間報告会を10月に実施し、全ての探究班が発表を行い、地域協働学習実施支援員・コンソーシアム構成員からの指導・助言を受けた。また、成果発表会を2月に実施し、ここでも全ての班が発表を行い、1年間の取組の総括を行った。さらに、この発表会を経て選ばれた5分野の代表班が、3月にオンデマンド配信形式にて開催された県教育委員会主催の「香川県高校生探究発表会」において、発表動画の配信を行った。

2年生：全ての探究班による中間報告会を11月に、代表者発表会を2月に実施し、コンソーシアム関係者からの指導助言を得て、探究成果や諸課題等についての理解と共有を深めた。特に11月の中間報告会では「香川県高等学校教育研究会探究部会秋季研究会」もあわせて開催され、県内の各高等学校から教員が参加し、生徒による発表に加えて、本校の取組の成果を各学年団の担当教員から発表した。これにより、県内の高等学校全体の探究的な学びの推進につながった。また、1月に開催された「全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」に出場した2グループが、英語発表部門で銀賞を、日本語発表部門で銅賞をそれぞれ受賞した。さらに、書類選考を通過した1グループが、2月に開催された「高校生国際シンポジウム」に出場し、オンラインにてポスター発表を行った。加えて、先述の「香川県高校生探究発表会」においても、校内選考で選ばれた2グループが発表動画の配信を行った。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

今年度末に、2年生を対象に「グローバル体験及び地域貢献意欲等に関するアンケート」を実施した。国内での外国人との交流体験の有無については、入学した当初の時期に実施したアンケートと、2年年度末の結果とほぼ同数となった。つまり、入学前に学校関連以外で自ら体験していた外国人との交流の部分を、コロナ禍に襲われた今年度については、グローバル事業の体験が補ったと言える。現在は学校での取組がなければなかなか交流が進まないため、今後も積極的に外国人との交流といったグローバルな体験を設定していくことが大切であると考えます。

また、学校周辺地域（牟礼、庵治、屋島エリア）や香川県を誇りに思うかという生徒の意識についても調査を行った。その結果は、入学時と2年年度末ともに学校周辺地域に対しては7割以上の生徒が、香川県に対しては8割以上の生徒が「大変誇りに思う」、「少し誇りに思う」という、地元地域に対する非常に肯定的な回答を得ることができた。さらに高校卒業後はどの地域に進みたいか、大学卒業後は香川に戻るかという質問に対しては、入学時と2年年度末とで多少の変動はあったものの、高校卒業後は「県内に進みたい」という生徒が約4割、大学卒業後は「香川に必ず戻る」、「香川にできれば戻る」という生徒があわせて約5割に上った。高校生活を送りながら視野が広がり自立心が育つ中で、香川県や学校周辺地域に対してこれだけの愛着を示しているのは、本事業の大きな成果と言える。

そして、入学から2年間グローバル事業によるプログラムを受けてきた2年生に、自身の、また学校の授業の変化についての質問で、自身の探究力・対話力・プレゼン力が向上したと思うかを聞いたところ、ともに3分の2ほどの生徒が向上したと答えている。オンラインで香川県や全国の大会で発表をするために、プレゼンの練習等を繰り返したグループもあったが、そうではないグループも含め、これだけの数の生徒が自身の能力の向上を実感していることは、今回の事業の大きな成果であると言える。また、総合的な探究の時間以外の授業についての質問でも、3分の1程度の生徒は、授業における変化は感じなかったと答えているが、3分の2程度の生徒は、授業で地域の課題を取り上げたり、外国の話題を取り入れたりすることが増えたと感じており、グループ学習やスピーチの機会が増えたと感じている。グローバル事業に取り組むことにより、その手法が他の授業にも波及していったことが読み取れる。

一方、昨年度に引き続き、テーマ設定や現地研修、班別活動や各発表会等、探究活動の節目において「ルーブリック評価」を積極的に活用し、今年度は全部で7回にわたって実施し、1年生と2年生の評価の平均値を比較した。「テーマ設定」に関しての評価では、1年生と2年生を比較して、最も数値が向上している項目の一つが「探究テーマとグローバル化との関連性」である。1年生では単なる自分の興味関心からテーマ設定をしている生徒が多かったようだが、2年生になってからは昨年の経験が活かされたことにより、グローバル化が進む本県の抱える問題が具体的に捉えられ、それをもとにテーマ設定をすることができていると考えられる。他の項目でも、評価が顕著に高くなっていることから、2年生では1年生よりも「テーマ設定」の重要性を意識して、明確な課題意識を持つことができていると言える。

また、「現地研修」を行った際の評価では、コロナ禍のために現地研修が思うようにできなかった状況にありながらも、1年生と比較して2年生では、少ない機会でも効率的に探究活動を進めようと「外部への連絡や事前調整」「外部とのコミュニケーション」に意欲的に取り組めたことがわかり、昨年度の経験が活かされていると思われる。その取組の結果が「課

(別紙様式3)

題の達成度」の評価の上昇に表れており、さらに「現地研修における班への貢献度」も1年生よりも評価が向上し、協働的な学びが進められていると言える。

そして、「成果発表」を行った際の評価では、1・2年生ともにスライド発表を行ったが、「スライドの見やすさ」「スライドの構成」といった技術的な部分での評価は向上しなかった。また、「チームワーク」の中の、「スライド作成」や「機器の操作」も技術的な事柄であり、活動内容の中で発表に必要な技術を身につける取組が不足していたことは否定できない。しかし、その一方で、「発表態度」が大きく向上したことは今後の様々な発表の場での効果が期待される。また、「研究の意義」についての評価が向上したことは、これまでの取組の中で培われた「探究活動」そのものの価値への認識が高まったと言え、これからも地域社会の抱える様々な問題解決への主体的な取組が大いに期待される。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

研究開発の最終年度となり、カリキュラム開発においてこれまで以上に各教科・科目での取組を強化し、学校全体で取り組む体制が充実した。また、「総合的な探究の時間」と「社会と情報」の年間指導計画を工夫・連携することにより情報収集からまとめまで一連の探究活動を充実・深化させる形が定着した。さらに2年次以降、コース横断型のグループ編成が可能となり、探究活動の多角化と探究内容の深化が図れるようになった。対外的には、県内の関係機関との連携が大幅に進み、年間スケジュールに現地研修計画が位置付けられたり、昨年協定書を締結した4つの機関との連携もさらに深まった。コロナウイルス感染症のため、海外研修を含め外国人との交流が非常に難しい状態にあったが、県内の関係機関に在籍する多様な外国人との交流会や海外の学生とのオンライン交流、外国語の授業におけるコミュニケーション能力の育成等により、幅広い国際感覚と高度なコミュニケーション能力を身に付けさせることが可能となった。これらの取組により、生徒たち自身の地域課題に対する「体感力」が向上し、諸課題を自分事として解決しようとする高い意欲を持つことができるようになった。また、課題解決に向けての情報収集や探究を深める能力、さらには探究した成果を効果的に伝えるプレゼン能力や関係機関に主体的に提言・実践していく姿勢も大いに高まった。

以上のように、3年間の研究開発の中で、本校独自の探究活動の進め方が確立されたが、今後の探究活動を進めていく上で様々な課題も残されている。全ての探究班が主体的で実効的な探究活動を進められるようにするためには、一層のきめ細かい指導とともに、一人ひとりのキャリア形成と関連付けた指導が必要であろう。また、情報収集や整理・分析活動に不可欠なタブレット端末や無線LAN設備等の機器をさらに有効活用した情報収集活動や情報発信等の取組にも工夫をしていかねばならない。そして何よりも、これまでの取組の中で蓄積されてきた探究活動における人的・物的資源を、継続的かつ安定的に活用できる体制の確立が最大の課題である。これらの課題を克服できるよう、県内外の他校の先進的な取組例も参考にしながら、今後も本校の取組を進化させていきたいと考えている。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	087-832-3750
氏名	笠井真希子	FAX	087-806-0232
職名	主任指導主事	e-mail	ga3112@pref.kagawa.lg.jp